中日新聞

個人情報開示の指針作成

市が方針　要援護者の把握促す

災害時の地域互助

なごや市議会　焦点

市議会二月定例会は五日、本会議を再開し、十人が質問した。市側は、地域で災害時に要援護者の支援に役立てるため、名簿などの個人情報を開示するガイドラインづくりに着手する方針を明らかにした。

（白石亘、奥田哲平）

地震などが起きても一人で避難できないお年寄りらを、あらかじめ地域で把握しておき、誰が助けに行くかを決めたり、訓練を行ったりする「助け合いの仕組みづくり」について、梅村邦子氏（民主）が質問した。

二〇〇七年秋に始まった助け合いの仕組みづくりは、市内四千六百の自主防災組織のうち、1・4％の六十七団体でできただけ。梅村氏は、普及が遅れている原因は、市が名簿を提供しないため、地域で要援護者をつかめないからとし「個人情報を口実に拒否するのはおかしい」と迫った。

松原武久市長は「極めて低い数字。今のままなら、全体に浸透するまで非常に時間が掛かる」と理解を示し、「名簿をどう提供するか、本人の同意を得ることなど、手順について早急にガイドラインをつくる」と述べた。

橋本浩幹氏（民主）は新型インフルエンザ対策の進ちょくをただした。長谷川弘之健康福祉局長は、国内で発生した際、発熱した人の電話相談に乗る「発熱相談センター」を開設することも表明。海外渡航歴や患者と接したかなどを聴き取る。

派遣切りに遭った人への相談体制を取り上げたのは、小出昭司氏（自民）。中村区役所には一日七十人が相談に訪れ、講堂前のロビーが待合所に。市民の展覧会が中止になり、年度末はさらに相談者が増える恐れもあるとに当たる「発熱外来」を各区に二カ所程度、市内に計三十カ所設けるとした。海外で発生した際、発熱した人の電話相談に乗る「発熱相談センター」を開設することも表明。海外渡航歴や患者と接したかなどを聴き取る。

派遣切りに遭った人への相談体制を取り上げたのは、小出昭司氏（自民）。中村区役所には一日七十人が相談に訪れ、講堂前のロビーが待合所に。市民の展覧会が中止になり、年度末はさらに相談者が増える恐れもあると

市は、順番待ちの人が一時的に区役所の外で待機できる場所を確保する方針を示した。

山口清明氏（共産）は、各区の社会福祉協議会が、失業者や低所得者向けに低金利で貸し付ける生活福祉資金制度についてただした。市側は、一時的な生活支援に充てる「緊急小口資金」（最高十万円）の利用が、昨年四―十二月の計二件から、今年一月は九件、二月は十四件に急増していると明らかにした。

あり方根本から見直せ

放課後プランモデル事業

市政ウオッチ

四月から小学校で始まる「放課後子どもプラン」のモデル事業を東郷哲也氏（自民）がただした。事業は誰でも夕方まで校内で過ごせる「トワイライトスクール」と、留守家庭児童が対象の「学童保育」を一体化させる。

当初は十六校で一斉スタートの計画だったが、学童関係者らの反対が強く、まず八校で始めることになった。事業の現場責任者を教員OBに限定するほか、父母らが運営しているその地域の学童保育が事実上閉鎖を余儀なくされるからだ。

学童の大半は校外のプレハブ小屋。指導員は若者が多く、遊びやおやつ作りにアイデアを凝らし、子どもたちをはぐくみ、地域から支持されてきた。

石井久士・子ども青少年局長は、教員OBに限定する理由を学校や地域との連携の必要性や豊富な経験などと説明した。だが、教師の「天下り」先づくりとも受け取られないだろうか。

松原武久市長は現場責任者に求められる資質に「子ども好き」「熱意」「指導しすぎない」と三つを挙げた。もともと「トワイライト」は初当選時の市長の公約。答弁で「開始から十年余。形式的、管理的になっていないか」と現状に疑問を投げかけもした。

市長の言う三つの資質は、何も教員OBに限らない。優先されるべきは、子どもにとって何が良いかの視点。いま一度、原点に返り、モデル事業のあり方を、根本から見直すべきではないか。

（豊田雄二郎）

市民版

吉野川風景（1）
中部行動展　古泉近
（8日まで県美術館

ニュース、情報は社会
231-7333 Fax201-4
Eメール
shakai@chunichi.c

中日新聞へのご意見
読者センターへ
221-0800 Fax221-0
Eメール
center@chunichi.c

名古屋天神
上野天満宮
名古屋市千種区赤坂町4―89
電話(052)751-0 FAX(052)751-0
●合格祈願●厄抜い
●自動車祓●安産祈願
●初宮詣り●七五三詣
●地鎮祭●竣工祭
各種ご祈祷●出張祭
年中受付

取り付け呼びかけ　名東消防署

春の火災予防運動（一―七日）期間中の五日、名東区のダイエーメイトピア店前で、名東消防署員や地元の消防団員ら七十人が買い物客らに住宅用火災警報器の設置を呼びかけた。

市消防音楽隊が「ドレミの歌」「カルメン」など五曲を演奏＝写真。署員らは、演奏で集まってきた買い物客らに「取り付けましたか？　住宅用火災警報器」と書かれたチラシを手渡した。主婦比野恵子さん（五五）＝名東区高間町＝は「近所のうちに火災警報器を